

# お祖師さまを巡る人々

第25回



高祖日蓮大士ご降誕  
800年慶讃

お祖師さま（高祖日蓮大士）は、龍ノ口の法難（平成三十一年一月号を読んでね）後、佐渡島（新潟県）に流罪（罪人を都から遠く離れた所や島に送る刑）されることになったんだ。お祖師さまは、佐渡島へ出発するまでのおよそ一カ月間、鎌倉幕府の役人（本間重連）さんの邸（家）にあずけられていたんだ。今回は「本間重連」さんのお話をするね。

## 本間重連

【本間重連】さんの正式な名前は「本間六郎左衛門尉重連」といい、「佐渡島」と「依智」（神奈川県厚木市）の二つの土地を治める武士だったんだよ。

だから、お祖師さまが、佐渡島に送られる前、依智にあった【本間重連】さんの邸（家）にあずけられていたんだね。この時はまだ【本間重連】さんは、御題目の信者ではなかったんだよ。

文永八年（一二七二）十一月、お祖師さまは、佐渡島の中心部の塚原という所にある「塚原三昧堂」という粗末（作り方が大ざっぱ）なお堂に入れられたんだね。そして、この「塚原三昧堂」で佐渡島での流罪生活が始まったんだ。

お祖師さまが、「塚原三昧堂」に入られて二カ月ほどがたったある日。一つの事件が起こるんだ。



塚原問答 守護代・本間重連が立会人となって、お祖師さまと「念仏の僧や信者」の法論が！

それは、佐渡島に住む念仏宗の僧侶や信者たちが、「念仏の悪口ばかりをいう日蓮は念仏の怨敵（うらみのある敵）」「日蓮は、どうせ生きては帰れないのだから俺たちが殺してもかまわないだろう！」と、「本間重連」さんに申し出てきたんだね。

でも、【本間重連】さんは、お祖師さまを鎌倉幕府からあずかって（返す時まで責任をもって守る）いたので、この乱暴な計画を許さなかった（願いどおりにさせない）んだ。

そのかわり信心の問題だから法論（それぞれの教えについて話し合う。意見を戦わせること）によって、決着（問題が片づき落ちつくこと）をつけなさいと言ったんだよ。

そこで、次の年の文永九年（一二七二）一月、佐渡島だけでなく他の国々からも、



明星山妙純寺（厚木市金田）  
日蓮聖人は龍ノ口の法難の後、流罪先の佐渡へ出発するまでの約1ヵ月間、依智（昔は依智）の本間邸に滞在された。その邸跡に建てられたという寺。ただ他にも2ヵ寺（蓮生寺、妙伝寺）、本間邸跡に建てられたと伝わる寺があり、どの本間邸に滞在したのかは定かでない

念仏の僧侶や信者たち数百人が、お祖師さまのいる「塚原」に集まってきたんだ。これを「塚原問答」というんだよ。（令和元年十一月号の佛立新聞「お祖師さまをお訪ねする物語」を読んでね）

その結果は、お祖師さまの勝利（勝ち）で終わったんだ。【本間重連】さんは「塚原問答」での、お祖師さまの威風堂々とした姿（態度がカッコよそせず立派なようす）やお話の内容に、とても感動されたんだよ。

『塚原問答』の後、お祖師さまは、【本間重連】さんに「鎌倉で内乱（国の内部のみだれ）が起こるから急いで鎌倉に戻りなさい」と助言（助けになる意見を言ってあげる）をされたんだ。【本間重連】さんははじめ信用していなかったんだけど、一カ月後、本当に鎌倉で内乱が起こったんだね。この出来事で【本間重連】さんは、お祖師さまを深く信頼（信じてたよ）とすると、御題目の信者となったんだよ。

【本間重連】さんは、最初は念仏の信者だったんだけど、素直にお祖師さまの教えに従い、厚い信頼関係を結ばれ、立派なご信者となったお方なんだね。



本間重連（妙純寺境内）  
佐渡国（新潟県）の守護であった北条（大仏）宣時に仕えた武士。佐渡国の守護代（代官）を務めており、相模国依智（神奈川県厚木市）にも所領があった



塚原三昧堂の跡（佐渡根本寺・戒壇塚）  
塚原三昧堂は、佐渡島を取り締まっていた守護代・本間重連の邸の裏にあった。監視するのに便利であったと言われている